

令和7年度 第1回酒田市社会教育委員の会議【概要】

日 時	令和7年8月26日(火)午後1時30分～3時
場 所	総合文化センター412号室
出席者	委員7名(欠席5名) 事務局 酒田市教育長、教育次長、社会教育課長ほか6名
<p>(概要)</p> <p>◆教育長あいさつ</p> <p>暑い日が続いているが、学校では2学期が始まる。クマ出没が相次いでいて心配だが、子どもたちには安全に学校生活を送ってほしいと思う。</p> <p>委員には、日頃より本市の社会教育・生涯学習活動の振興に対し、ご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。これから2年任期で酒田市社会教育委員を依頼する。さまざまな分野でご活躍されている皆様へ依頼できて、大変ありがたく思っている。</p> <p>本市では、子どもを縁として、学校と地域が目的・目標を共有し、連携・協働して地域づくり、人づくりを行う「酒田型スクール・コミュニティ」の取り組みを進めている。</p> <p>具体的には、地域と学校をつなぐため、今年から社会教育課職員が学校訪問をしたり、中学校の学校評議員会等に参加したりして、現状の把握に努めている。</p> <p>さまざまな知識や経験を有する地域の方々と一緒に、地域の実情に応じた活動をとおして、地域と学校が一体となって子どもたちの学びや成長を支えていくのが、「酒田型スクール・コミュニティ」である。委員からも「酒田型スクール・コミュニティ」について、ご理解とご協力をよろしくお願いしたい。</p> <p>本日は、生涯学習推進計画について、活発なご意見をいただき、有意義な時間になることを期待する。</p> <p>◆座長の選出</p> <p>富士直志委員を座長へ選出</p> <p>◆座長あいさつ</p> <p>生涯学習推進計画について、率直な意見交換をお願いしたい。来年秋、酒田市で山形県社会教育研究大会が開催される。皆様からも協力をいただき、成功に向けて頑張りたい。</p> <p>◆協議</p> <p>○座長</p> <p>生涯学習推進計画は、令和2年度に策定されたが、コロナの影響でなかなか計画どおり実践できなかった。後期計画では、予定通りに実践できると思う。県の生涯学習の計画は、令和5年度から教育振興計画へ包含されて無くなった。</p>	

○委員

質問だが、東北公益文科大学の公立化の進捗について、また、酒田市がパブリックサービス賞を受賞したことと社会教育との関連を教えてください。

○社会教育課長

社会教育課では公益研修センターの指定管理をしていて、更新の時期なので内容を精査しているところだが、公立化の詳細についてまでは把握していない。引き続き、公益大学と連携はしていきたいとは考えている。

○教育次長

先日、市長が東京の授賞式へ参加したが、船井総研ホールディングスが主催する「サステナグローバルカンパニーアワード 2025」の「パブリックサービス賞」を本市が受賞した。女性活躍に特化した取り組みが評価された。「日本一女性が働きやすいまち」を目指して、企業の協力を得て「えるばし認定」を増やし、その企業数は同規模の自治体では全国一位となった。

市長は、「地方だけで発信しても埋没するが、東京で表彰されることで酒田市に注目が集まり、若者などにも広く発信できることはありがたい」と言っている。フォーブスという雑誌にも紹介される。

○座長

公益大学の公立化はいつからか。

○社会教育課長

来年度からの予定である。

○委員

先ほど教育長から、「酒田型スクール・コミュニティ」の話があった。川南地区では、義務教育学校を見据えた学校統合があるが、今後、「酒田型スクール・コミュニティ」を持続していく予定なのか、「コミュニティ・スクール」への移行を視野に入れて統合を考えているのか、方向性が示されていれば教えてほしい。

○教育長

昨日も中学校校長会があり、その意見をきいたところである。「酒田型スクール・コミュニティ」と「コミュニティ・スクール」については、校長の間でも意見は分かれていて、「形を整える必要があるのか」という意見と、「形から入るべき」という意見がある。

酒田市では、「学校評議員会」という制度で地域の方々の意見をきいている。酒田市教育委員会の方向としては、今すぐ「コミュニティ・スクール」の導入は考えていない。

先ほど申し上げたとおり、今年度から学校評議員会、年度初めの学校経営訪問等に社会教育課職員も同席させていただいて、学校の現状、地域の現状を知るところから始めている。そして、教育委員会としてどんなことができるのか考えていて、社会教育指導員、企画管理課にいる地域プロデューサーがコーディネート役を担うことができないか、考えている。

「コミュニティ・スクール」では、地域と学校が話し合う「熟議」があるが、「熟議」は「コミュニティ・スクール」でないと出来ない訳ではない。昨日の中学校校長会では、地域と学校が一緒になって考えていくのが「熟議」なので、それは学校評議員会の場合でもできる、という話になった。

第一中学校では、拡大学校評議員会という形で、地域の方からもたくさん入ってもらって熟議をしていくように動いている。各校長は、そんな取り組みの話もききながら、今後のあり方について一緒に考えていこう、という話になった。

地域との連携・協働については、小学校は進んでいるが、中学校は学区が広くなり難しくなる。第一中学校のような拡大学校評議員会という形で熟議をしていく動きも見ながら、酒田市の方向を考えていきたい。

遊佐町は、退職した校長がコーディネート役をしていて、その「人」の存在が大きいという意見もあった。酒田市では、人の配置についても検討しながら、令和10年の学校統合、令和15年の義務教育学校の開校に向けて、地域の方と「どんな子どもたちを育てたいか」の話し合いをしていきたい。

○座長

この話は、以前にこの会議でも話題になっていて、教育長が変わると方針が変わるのかという話もあった。文部科学省の管轄部署も違う。学校と地域の間をどうするかという話である。教育長の言う、「酒田型」を目指すのは正しいと思う。中心部と郊外では状況が違うので、地域の実態に応じてスタイルも変わっていいと思う。画一的ではうまくいかないと思う。遊佐町ではコミュニティ・スクールを進めているが、状況を教えてほしい。

○委員

以前、遊佐小学校へ勤務していた際、コミュニティ・スクールの立ち上げに関わった。コミュニティ・スクールにはさまざまな条件があるが、教員の人事面については教育委員会にお任せし、それ以外については地域と一緒に課題を解決していく、ということで始まった。

さまざまな自主的な団体がある中で、それを束ねるキーマンがリーダーシップを発揮して輪が広がってネットワークになった。その後、小学校が統合し、中学校も一緒になってコミュニティ・スクールとなった。

制度の名前というより、地域みんなが地域を誇りに思い、地域の良さをみんなで話し合い連携・協働をしていく熟議という機会が大事なのだと思う。

川南地区は、それぞれが特徴を持っている地域なので、「これは守りたい」というものがあると思う。統合協議の中で、「この事業は学校で担う」「これは地域にお返りする」と整理することになると思う。

○座長

川南地区では、現在統合の話をしていると思うが、どんな状況か。

○委員

今の話のとおり、川南地区の6つの小学校でそれぞれ特徴があるので、何を残して何を統合するか、これから協議していくことになる。川南の校長会を臨時に9月に開催して協議を始める。

○委員

当地区でも説明会があった。年長児は、中学3年までの9年間で学校が4回変わることになる。環境変化が大変だと思うが、9年間を見据えた教育計画を立てて、今からそれを教育課程に組み込んでいただきたい。子どもたちも先生も戸惑いがなく、いいモデルケースになるのではないかな。

候補地の場所は決まっても中身が追いついていかないと、子どもたちが大変である。

○座長

この会議では、中央公民館のあり方について、廃止するか等を議論してきたが、この計画素案では触れられていない。

○社会教育課長

中央公民館のあり方については、公民館運営審議会でも議論してきた。利用者アンケートも取ったが、利用者の声としては今のままが良いという状況だったので、今すぐ機能廃止の必要はないという結論になった。

○座長

計画素案では、中央公民館に触れられていないので、無くするのかと感じた。「つながる」部分では、ミライニだけが拠点という印象がある。

○社会教育課長

言葉として出ていないが、中央公民館やミライニ、コミセンなどさまざまな場を想定している。

○座長

「つながる」部分は、「図書館など」と表現してはどうか。他にもあることが分かる。中央公民館は「つながる」だけでなく、人を育てる機能もあり、重要な役割があると思う。

○社会教育課長

基本的に中央公民館は生涯学習の中心にあると思っている。表現については検討したい。

○委員

「いつでも どこでも だれでも 全ての市民が」とある。地区の敬老会の対象者が170～180人程いるが、参加は20数人程度である。来られない理由をきくと、外に出てコミセンまで歩くのが大変だとのこと。そんな人たちでも学習をできる手立てがあれば教えていただきたい。人数が多いと送迎も大変である。

○社会教育課長

歩けない方は、介護サービスやデイサービスを使って人と交流を持つことはできると思うが、社会教育課として実施することは難しい。

○委員

人生100年時代、みんなが幸せに生きるという考え方だと思うが、乳幼児から高齢者まで、障がいの有無もかわらず酒田だから充実した暮らしが送れる街づくりをしてほしい。特別な施設に行かなくても無償で集える場が地域に点在し、付き添いの方も情報交換やほっと息抜きができ、老若男女問わずみんなが幸せを求められるような場があるとありがたい。

「いつでも」「どこでも」「だれでも」と掲げられているように、インクルーシブな枠組みで市民の皆さんが幸せでいられる環境づくりを官民一体となって取り組んでいただきたい。

○委員

ミライニの絵本コーナーの本の並びが作家名のアイウエオ順になっていて、探しづらい。何度も訴えているが変わらない。鶴岡市や遊佐町では、作品名のアイウエオ順になっていて便利である。図書館としては正しいかもしれないが、毎回コンシェルジュにきいていて不便である。

酒田っ子根の力育成プロジェクト事業に吉野弘朗読会がある。今年、生誕 100 年と知った。吉野さんは、琢成小学校や泉小学校の校歌を作詞したが、知られていない。今年、第六中学校で生徒と吉野弘の詩を読む機会があったが、泉小学校出身の子でも校歌を作詞した人を知らなかった。

このような地元の偉人については、もっと大事にしてほしい。朗読会だけではなく、全市をあげて取り組むべきである。

吉野さんが晩年を過ごした静岡県富士市では、「吉野弘のこころを詠む 朗読コンクール」が毎年開催されている。吉野さんは酒田生まれで、酒田への愛情も強かったと聞か、酒田市民は関心が薄いと思う。教育の力で真剣に取り組んでほしい。

○社会教育課長

絵本コーナーの件は、要望をいただいて回答しているが、検討したい。

吉野さんについては、ご意見のとおりと感じている。生誕 100 年をきっかけに市民に広めていきたい。今回、新規に事業を立ち上げたので継続していきたいと思う。

吉野さんが亡くなった年の翌年、岩手県大槌町の成人式で吉野さんの『生命は』が朗読された。それを見て、酒田市民も吉野さんの言葉を紡ぎたいと思って高校生の朗読会を開催した。他にも詩を味わう講座も開催したが、継続は出来ていなかった。この機会に、吉野さんを発信していきたい。

○委員

高校生だけではなく、もっと下の世代に発信してもいいと思う。

○社会教育課長

子どもたちに向けては、酒田の偉人の紹介パネルをつくって、土門拳さんや中村恒也さん等と合わせて小・中学校に掲示している。子どもたちにどこまで届いているか把握するのは難しい。

○委員

子どもたちは、そのパネルで顔だけは知っているようだったが、何をした人なのかまでは、知らないようだった。

○社会教育課長

今回、対象を高校生としたのは、図書委員ならば興味があるのではないかと、そこから広く周知していきたいと考えた。

○座長

朗読会の時期はいつか。

○社会教育課長

12 月の予定である。

○座長

生誕 100 年なので、里仁館でも阿蘇さんや万里小路さんを招いて朗読を企画している。評判が良ければ来年もしたい。社会教育課も、評判が良ければ継続してほしい。

○委員

二十歳を祝う成人の集い開催事業に、「実行委員が自主的に式典の企画・運営」とある。酒田市

では、2000年生まれの子の学年の成人式だけがコロナで実施できなかった。県外流出を防ぐには、地元への愛着が必要だと思うが、愛着を持つためには、地域や学校やコミュニティから大事にされたという気持ちが必要だと思う。それが、最後に成人式で切れてしまったのを見てきた。

「自主的に企画・運営」には、大人の力が必要なのではないか。18歳で成人となって、2年間かけて式典を企画・運営できるようにしてほしい。働いている人は、単発ではなかなか難しいのではないか。地域の一人として、おめでとうと言いたい。この二十歳を祝う成人の集いは大事にほしい。

○社会教育課長

実行委員は、企業やコミ振へ推薦依頼を出して集めている。近年は人との関りが少なくなっており、コミ振でも近所の若い人を知らないようで、なかなか集まらない状況である。例年7～8人の実行委員を集め、夜の会議になるが、5～6回程度集まって企画・運営をしている。

単発ではあるが、関わった子どもたちには、自主的に活動することで、やり切った達成感や地域への恩返しなど、何かを感じてもらいたいと思う。職員が伴走しながら手伝っている。社会教育課がこの事業を担当しているのは、人材育成の目的がある。

式典が中止になった学年に対しては、自主的に集まる企画に対して補助金を出す制度等の対応を行った。

○委員

関連事業に平田の刺し子があるが、飛島にも刺し子がある。継承している人が今もいるかどうか分からないが、飛島の刺し子は、他にない特徴を持つ貴重なものなので、残してほしい。人材育成の中で、刺し子をできる人を育ててほしい。

○座長

成人式の話に戻るが、出席率はどの位か。増えているのか。開催時期はいつか。

○社会教育課長

出席率は60%台で、ここ数年変わっていない。昨年から5月4日に開催している。

○委員

飛島の刺し子はどこかに展示しているか。

○委員

日如山小幡楼に、庄内刺し子研修会(傘福研究会?)の村上さんが刺したものが展示されていた。ユーチューブでも見られる。平田刺し子の会の本にも記載があった。

○委員

生涯学習まつりに関わったことがあるが、日程がつや姫マラソン大会と重複する。

○社会教育課長

生涯学習まつりは、以前から10月第3週の金曜、土曜、日曜で開催してきた。途中からつや姫マラソン大会が始まり、日程が重なった。交通規制があり不便な面もあるが、相乗効果で賑わいづくりになるかと思っている。

開催日程は、実行委員会で相談するが、交通規制があって大変だと毎年話題になる。。来年の日程は、近日中にある実行委員会で決める。

○委員

計画素案の目標数値に「増加させる」とあるが、どの位なのか明確にした方がいいと思う。

○社会教育課長

上位計画の酒田市教育振興基本計画でも目標数値はこのような表現になっている。現状値より増やそうとするものである。

○委員

アンケートも取っているようだが、そこに「ニーズ」とある。これはニーズ調査をしているのか。

○社会教育課長

各講座の最後に受講者アンケートを取っている。満足度やどんな講座がいいかなどの意見を吸い上げている。

○座長

酒田市教育振興基本計画の次の計画はどうなるのか。

○社会教育課長

酒田市教育振興基本計画は令和 12 年度からの計画のため、令和 11 年度に策定することになる。

○座長

酒田市教育振興基本計画が令和 12 年度からだ、酒田市生涯学習推進計画も同じ令和 12 年度からで、やりにくいのではないか。

○教育次長

酒田市生涯学習推進計画は、酒田市教育振興基本計画と重ねて策定するものではなく、令和 12 年度から入れ込む形にする。酒田市生涯学習推進計画を単独では策定しない、と事務局では考えている。

○委員

酒田市教育振興基本計画、酒田市生涯学習推進計画の冊子があったら、いただきたい。

○座長

酒田市生涯学習推進計画の後期計画について、今後はどんなスケジュールになるか。

○事務局

本日の意見等も踏まえて修正し、再度、11 月頃にこの会議に諮りたい。

以上